

活動記録書

開催日： 令和元年12月5日(木) 晴	開催テーマ： 本牧山頂公園と紅葉の 三溪園散策
開催場所： 中区山手・本牧	記入者： 横山 美智男
参加人数：	
会 員	男 22名 女 8名 計 30名
ビジター	男 0名 女 0名 計 0名
合 計	30名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：	
<p>コース：山手駅前(集合)～本牧山頂公園～本牧神社～三溪園（昼食）/外苑・内苑見学/(解散)</p> <p>山手駅を出発し、本牧山頂公園を目指して住宅の間の坂道を登っていくと、YC&AC(横濱カントリー&アスレチッククラブ)があった。明治元年(1868)、スコットランド人の貿易商ジェームス・ペンダー・モリソンが中心となり会員制の「横浜クリケット・クラブ」として創設された。</p> <p>アメリカ坂、貝殻通りを横目に見ながら公園入口へ、本牧山頂公園は米軍接收地の住宅地区が昭和57年(1982)返還され、横浜市が整備し平成10年(1998)に開園した。広さ約22ha、頂上付近は見晴らしがよく港町横浜を思わせる風景が広がっていた。レストハウスがあり暫し休憩をする。</p> <p>坂を下っていくと本牧神社に着く。元は本牧十二天社と称し、創建は建久3年(1192)、または弘長3年(1263)など諸説あり、本牧の総鎮守だった。接收により仮遷座していたが、平成5年(1993)現在地へ遷座した。祭神は大日靈女命(おおひるめのみこと)(天照大神)。永禄9年(1566)から続く「お馬流し」の神事(県無形民俗文化財)が毎年8月に行われる。富岡八幡宮の神事、祇園舟と似た神事である。御馬流し資料館を見学、萱で編んだお馬が展示されていた。</p> <p>20分ほど歩き三溪園に到着。生糸貿易により財を成した実業家、原三溪によって、明治39年(1906)市民に公開された庭園。国指定重要文化財10棟、横浜市指定有形文化財3棟など多くの建物が移築されている。</p> <p>全員が濱ともカードなどシニア証明証を提示して入園。旧原家住宅の鶴翔閣前で簡単な説明を受けた後に園内ベンチで昼食をとった。昼食後は順次園内の建造物などを巡ったが、以下には主なもののみを記す。</p> <p>最初は旧矢筈原家住宅、唯一内部見学ができる建物である。江戸時代後期の白川郷にあった合掌造りの建物で、内部は農家ながら豪勢ぶりがうかがわれる造りである。旧燈明寺本堂や旧東慶寺仏殿など外苑を巡り内苑に入る。臨春閣は紀州徳川家の数寄屋風書院造りの別荘建築、普段は池越しに優雅な姿を見せるが一部工事中は残念であった。奥の聴秋閣は京都二条城内にあったと言われる徳川家光、春日局ゆかりの楼閣建築。この辺りは紅葉の映える場所でもあるが、今年は台風による塩害の影響もあるように伺われた。</p> <p>最後に三溪園の創設者・原三溪に関する資料や、ゆかりの美術品などを展示する三溪記念館に立ち寄った後、園内で解散しバス停まで歩き帰途についた。</p>	
参加者の状況・意見など：	
<p>穏やかな天気で良かった。坂道は多かったが比較的なだらかで隊列の乱れも少なかった。紅葉シーズンで比較的に入出が多く、また新郎新婦の前撮り撮影も何組か行われて華やいでいた。今回も無事に終えられたことに感謝したい。</p>	
次回の予定：	
令和2年1月10日(金) 京急六郷土手駅 10時 「六郷の渡しから参詣道を川崎大師へ」	